

911.3
ホ

集
二

L



法法華經黃鸚品第一

常聞農初音如之入苔如之 白圖

月をこのすきより所り 岳務

山陰の里の部若の音ふありて 士朗

あさねの雉を清る瀧川 徐英

咲ける曇るうけのふねある 杜有 騏六

ふみは一日漸かりあり 白圖

白須加らそをぬくぬくをぬくぬくをぬくぬく
岳格

雛若目のええぬ門口
士朗

老僧の本業捲んぬりかがり
徐英

のささるしくに中々く姐板
騏六

古郷のたよりもちりき秋の風
昆明

ゆるれ長きよまのう探可
方明

あつやれ月ハ石ふたよみて
白圖

妻をとりぬ来る深き山の山
岳格

お日影を乳お停まてぬかきすそ
士朗

柳花カタ繁れうつくしとちる
徐英

養うおお一本の桜年百く
騏六

あつを惜めとをくむ丁のの
昆明

暖人おゆきを看やうく小益
方明

衣のやうぬをちきる姉一さ
白圖

さよのせおふゆみとくくるるるるるる
岳格

恋の清水お新ぬるるる
士朗

雪の梅ふえ場ハありけり 北雲

うと云くはそとうも鳴らり月と梅 士朗

さき風の里よそ

苔の啼きうらたる船日の家 椿堂

さきゆく記北五日

あきくよふうと飛ぶ北野哉 方明

雪の雪を踏のく山路あな 徐英

うらひすや朝日の早き舟の上 羅城

雪のれあるともさぬ小庭哉 玉湖

雪の舞のゆきゆく推のふ 壽覺

雪のゆかかきゆくや羽子と雲の影 杜常

うらひすの啼かふふもさるる雪の影 槐圃

雪のは角ふかけたる山とこゝろ 自樂

宗祇の雪とてあき

持流の雪とてあき

雪とてあき

雪のふかゆる人宗祇の小短冊 竹有

うらぶすよれ造りしを救の深 素剛

うらひすの小すりうらうらうの枝 猿左

うらひの啼きしをさうぬ日なきし 伝音

うらひのすや雨の笹山啼きし 墨山

昔柳品第二 22. 昔柳品第二

海の中は四百中まゝの極み系 方明

柳見てもなまをい人のえんりり 標堂

いさ寺も海をさそてあふり 素貞

郊外と行く余中の口号 大虎

まゆ柳や日ハ暖そをさしあまき 騏六

川上ら雲津柳くりりう南 八素

まゆ柳のそや三え柳るる羽黒 素外

川の影の柳ふかき小池うち 天老

若る鳥柳あまき家ふけり 百池

青柳農立三三ひきり流葉川

大阜

青柳よけし免て月北きつあ也

魯雄

月おろきしぬりさうかれあ柳

楳價

寄白回老人

柳極し人思ひさう流りあ

九成

青柳よけし免て月北きつあ也

大江丸

流りあ柳の帯あぬ

素兄

春の道中書ふ柳の一ぬり

岳格

青柳お雨や小泉あひとり口

士朗

夕柳ききし免て日ふりあ柳

亞湍

梅花品第三

飛きてるれおしあ柳哉

羅城

青柳かひる是戸のさふ

士朗

何處と心せらるるまぬ其はるるを 岱書

月孔ありにて服引をぬく 岳格

ふろくと蛙たゆきをかくて 桂五

箕の水よりあまるさ菊の香 少女

四方山の雲の色をさあのかしかに 斗入

寺のそと門ももの破れをほく 羅城

さぬくふまかされたる人のあや 士朗

平捨ゆりたをきこかりきり 岱書

中をよめよまのま果ふたの事 岳格

麻孔衣を破く 四の月 桂五

またまけり念を心門の浪の上 少沙

御雲の影をうらるる原塔火 斗入

空をよめせすふ種をたてこめて 羅城

月うめくとして 蛙鳴なり 士朗

かのうよて一里も二里も峰のむ 岱書

六田の老農をさふ 少沙

僧正此年もすしつる約観偶

桂五

研の痛を拂ふ出の了後

岳路

しるるのぬれも核のやぬれ

斗入

船の舞を少りしをり

羅城

その跡のまじりぬれあり

岳路

あしらのまよかりぬえ

岱音

まよりしつらそゆるん船日山

士朗

せよよをををををを

桂五

あつ雲の月を陽よりおひら

少沙

芙蓉の花を心をとりし

士朗

しんぬれを足元おろし守極上

羅城

鶴のまけしを物ゆめひ

斗入

草子もふ袖をひきてすし

岱音

しんまゆのつらき

岳路

まろくを何をまよを牛の者

桂五

百足の業をるるよりみ

羅城

花もよもや 豪華なからぬ 来たり 未入

平もよもや ちよとすまひ 大空 少砂

花もよもや 豪華なからぬ 来たり 未入

花もよもや 豪華なからぬ 来たり 未入

蓬萊老先びのやまの梅 天老

口のやぶの梅もぬぬ人も解 北雲

北野神社前にて 花もよもや

ふゆのたれ白さの神のんうぬ 長翁

いりふんよとてうら 柳庄 梅のふ 玄院

うりふんよとてうら 柳庄 梅のふ 玄院

白梅るふふとせあり 梅のはな 柳庄

梅の香も梅の影もすむる 竹有

ふゆのたれ白さの神のんうぬ 杜石

梅もよもや 豪華なからぬ 来たり 未入

春霞一刻價千金 士峰

梅一本とちて年ちるるを 松兄

岩井小雲の母の梅の花 大泉

老木中花ありて 逸漢

よしの梅の影あり 卓池

お梅の影ふさふさ 文兆

野梅の影よ 月居

さき梅の影あり 井六

うしろの影あり 多松

花の影月にて 呂利

うしろの影あり 左誥

枯竹の影あり

小梅の影あり

さき小梅の影あり

梅の影あり 寿松庵

又山の影あり 方朔

中野の影あり

山の影あり 騏六

さき山の影あり 白圓

ひしひしと雪くもり也 梅の花 素稜

春雪三品第八回

春の雪梅のさきふけぬく 自楽

春風のまろくうけ来る小春哉 桂五

昔のちやうぬぬ何の逢ける雪 松兄

あまのつゆふりけりけり 素稜

あまのつゆふりけりけり 素稜

あまのつゆふりけりけり 素稜

いせ浦や波あそぶ海苔も雪 自徳

古寺や春の雪ふるる月夜 素郷

春の雪浦の雪屋も松たて 斗入

ももが雪積るの老あちのうの歌 杜九

風流の底をぬけ串りまの雪 蘿圭

るる新也言言此朝の志のふき 彰門

... of the ...

... of the ...

朧月品等八五 ... 素霞

... of the ...

月おて牛一一の朧有る 趙島

あゝ〜一の朧有るの月 魯隱

ををれと朧かあるの月お成 岳格

舟中

お布海月去向よありぬ男山 昆明

おちり〜

松よりい少〜上ありおちる月 如高

清の月流お〜りいり〜川 可都里

繼よるとさ〜しお〜る月 青霞

あゝ〜あゝ〜は〜ておちる月 空河

くお〜ておち〜る月 素祭

燈小宵く君あも似る月 若涯

水郭塚

蘇陰形こそ似くおのちの月 素外

舟中くく人も這よおのちの月 紀鳳

山崎の寐あそりおのちの月 重羽

少くくあそり那りぬ後月 桂五

鳴蛙品竹六

淋くさる人よあやもれ鳴蛙 蕉雨

鳴かて田よりとあす 大阜

雲と那り雨とあす 白圖

蛙あそり渚のあちとあす 子繩

そる水の底はあす 墨山

鳴蛙ぬきぬけあす 芦九

豊川とつゝ所よ日く

了豊よ陸写ある山家このち 帯楳

瀬戸山小て

陸あく垣をきふあの本此常即 岱青

少さりし心く世をたてて陸 友圃

山吹よさる城の自是この取 入素

龍野田たて

陽冬品竹了七

かけろのやけうりともなる端午 士廻

机せん書考をもそらふみさる 代書

大せんなるたふち檜の園すをて 帯楳

浪のよこあゆるおあきく勢え 紀鳳

かゝるうふくおをあき那き月を 大阜

社来あのみあき宿の秋風 黒流

まきつちあきまをんさふれけり 岱青

か飼とのく温泉の所は南一 士朗

尻赤の所の袂もさあはし居 紀鳳

照ふに影さし居き生虫を嘗 帯楳

むさへやまを為すまゝしる部ら 墨山

珠の南にかく瓦のくさ子 大阜

月近きと吹草を繁き藤より 士朗

溜階かゝるし恋のありさ海 岱青

木上よりとくし地味をきり 帯楳

志形はけしるものさあはし物 紀鳳

山鏡の矢を肩ふ籠子さしはけ 大阜

と木とと迎へる六十衆の衆 墨山

梅う香ふ白舞のさつとる恋の外 岱青

扇の這入して袋ありあす 帯楳

海衣表汗ふあはる佛達 墨山

菅と千とまきとまをうかお花 士朗

ゆけい又まゝに居る所の
紀鳳

あはれものころやまの宮の殿
大阜

松をよむまを木末裏の居る
帯楳

中をよむまを八月の月
代書

初屋をよむ破の山あふえり
士朗

中をよむまをよむまの
紀鳳

目おりの後のまをよむまの
代書

更てあつてよむまの
墨山

あつてあつてよむまの
大阜

あつてあつてよむまの
帯楳

あつてあつてよむまの
紀鳳

あつてあつてよむまの
士朗

あつてあつてよむまの
墨山

あつてあつてよむまの
代書

あつてあつてよむまの
大阜

河邊小袖をかきくを中ぶ 長厨

かけろるや刀さへて眠る人 斗入

のちゆるるや袖ふすぬる松の脂 卓池

ゆきや河邊流る松のひま 羅城

かけろるや松葉をぬるよ油皿 北如

ゆきや馬の鼻はら牛の尾 白圖

ゆきやゆらゆら河のさうの所の工 少汝

ゆきや人よ別れをさるる麻 徐英

混雑品第八

ゆきやゆふとさる 秋の蝶 白居

来て又ねを何のきも形 小お座 物裁

おくくの清水をふるふ氷のまを
ひまるくくちちてんをさくくたより
おねくくくくくくくくくく

月あかりのまをくくくくくく 青阿

閑了半日

はきくれ机の上や巾着は 于當

巾着やさうしをさすも松の影 一之

中よふ穂葉はより 秋の水 唐水

山居 *Yama no Iwa no Ue ni Iru* 花 *Hana* 吟 *Uta*

来ぬましもおもふ人のまふれき 竹人

お雛も指されぬはゆかおのこ 注聞

月ええて夕なぬむくや下このな 洞里

ゆき *Yuki* *Yuki no Ue ni Iru* *Uta* 雲帯

花もゆきをふかきもふかき 圃曉

昔の松 風巻のせふり色もよるに 期並

左の風よのそめりうよ

そくして舞もよめよのふかき 壹伯

まつりして花もふかき 若人

まつりして花もふかき 双鳥

まつりして花もふかき 其谷

宵月やとつし寝せむ。琴の上 蕉雨

月と心とをすりうす。夜半後 雄淵

三日月ハ己ヲ依ル。此月おのま 李臺

酔あきまていとおや。しつとる

さびゆより月ハんきり。厚のき 騏道

人小泣いて雪の海み。戸口哉 希言

暑りや都をほく。む輝のき 菊溪

春風の月小吹あり。山の上 長翠

秋の雨結より。暮るや。哉 蘭二

かりしあはれを。おれくさる。ぬり 素芳

中天をよもも。あえり。言。月 芸門

おそれを。川。洲の。言。お。ち。く。何 可董

誰より。お。お。月。ハ。む。ね。お。か。り 富田

淡海。在。中 豊

一日ハ。風。不。解。事。り。其。方。の。松 沙漠

十九

風もまじき二月の氣男 五明
露をさすもの心も蟬の壳 棋價

送人

物明の先ふちまきり秋の風 関叟

灌園

楷や何れさるるをきい砂の上 卧央

ふりし極し心もさるる秋の露 庭甫

露秋の起るまよりおのぬぬ 延至

二日川岸上二日おきさるるの露 五周

ふりしきい上りおるるをきい 丈左

さるるる露ちりしき日の露 垂龍

蝉籟や夏風代々のけ可 巢北

山路をりてさるるるるの露 如毛

穂まきの氏や子のよけつる露 仙布

渙舟小秋の上ふえゆるかち 代堂

もる風のちりしきさるるる 柳涯

世の上よ日おほきりぬ女命ふ 辰甫

すきるを人のえんふ来る小ある 大年

みよしおほき常ふ成せり小おん 松人

思ひおすよまなる世の又ん哉 葛斎

際くハ心まの成てもおし也 雨滴

月影よ舞のうけよ糸糸よ 三直

ありとけりおや小鹿のむすき 珉丈

まの庭はさひあよるよきりん 春曉

二口アそんやうもぬけり 其成

きねおねあもほりあきあふ 夷日

層岩山神妙ふまゆるうれ 带楳

みよしおほき常ふ成せり小おん 昆明

をむしるおきを延せられたる 蘭水

みよしおほき常ふ成せり小おん 紀鳳

ある寺ふ一あをあらう

竹ももせのあをいさむ行時雨 羅城

かぢこの人ななり秋の月 岳路

味もこのは世も人ものさる 少汝

山をたむよりふささきさき 士朗

むらより室よりあきまはす 岱書

あきより室よりあきまはす 岳路

あきより室よりあきまはす 岳路

寛政十年正月 岱書

撰者 岳路

西上人東國のわたりしは路

子載集勅撰あわと河くは路

しけふららまき水まは師小

川あひらわ勅撰のこもまらね

なまらけや披露しては歌と

お茶く入きわといはるる時立
沢のつらや、いふ事と回すはれ
りまは見えけし梨よさそ茶よ
やうく、いふ事と要するにきて夫
れは東国へいふ事と要する
とろ、難うね撰集乃本、わっ

友白園かつく撰集、名は沙古
ありま十と書きしは、いふ事と次
云筆、仙墨、名の者、いふ事と
え、わと、いふ事と、いふ事と
と、いふ事と、いふ事と、いふ事と
と、いふ事と、いふ事と、いふ事と

ちりふりやうに見ゆれば若子 岱青
 落葉ふ梅乃 碧う不老の杖 他郎
 ぬふ言うつろは洛陽名春 沙漠
 西の言さうくいろくふきさひらわ 茶雷
 足利海の衣ほゆくうし 紀鳳
 ういも勢てをふは鏡は羅十不 少汝
 杜海棠のゆきかふる月 白圖
 き弱くと風ふたむら 羅河 羅城

躍崩ししうまをふも長 漢 朗
 ありしうまをふも長 漢 朗
 どの隈くまをふも長 漢 朗
 菅公乃仰をふも長 漢 朗
 土筆名わお次をふも長 漢 朗
 うす墨をふも長 漢 朗
 山織すくうは名をふも長 漢 朗
 雜面をう終をふも長 漢 朗
 郎 漢 朗
 毛 漢 朗
 輅 漢 朗
 萬 漢 朗
 青 漢 朗

少之波上高 期 祥 中
身不持也 中 六 進 不
陣 至 乃 花 六 水 竹 入 出 名
大 官 司 乃 名 比 進 進 比 樂 乃 心
の 一 行 進 乃 祥 花 六
馬 心 進 進 乃 乃 用 進 一
空 國 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

雷
鳳
汝
朗
城
萬
輅
先

霧 乃 船 不 一 掃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

青
郎
朗
汝
鳳
國
漢

二日月

産鉅の種をなす事日月

暁臺

鶴や一字月らなる川橋

他郎

鴨一羽橋を共にする大り

騏六

花をなす事は流るる月

蝸角

石の層をなす事日月

岱青

方りの字は此の事なる也

閻毛

木をなす事は此の事なる也

木鼻

白雲の種をなす事日月

白囷

石の種をなす事日月

地如

木をなす事は此の事なる也

木人

巨川の種をなす事日月

巨川

雲の種をなす事日月

雲兄

寸由 ころり

家つのみれぬもをうし初時 来山

しとれはつ使里の萩の枯葉小 宇洋

まろりささを月の出る小市小 五道

しるりや宿を杉風杉のを 霜居

杉まろ葉ぬしすさゆり初時 白蕙

ろりころりまろり家宿の時 馮月

大和

江戸

あかりに啼きくろ鳥 斗入

因奇

ころりや小所りあして幾せ 趙鼻

風やあふふれらじり 也人

ころりやあとの音の園 一之

イナ

かまあー 枯尾丸

いんちとろりあしあし 草人

風の尾をころりかきて折るわ 伯先

イナ

ひのふもすけの... 木尾花 蘭水

しあ... 胡集

木あ... 許風

冬月 水色

志... 李臺

あけの月... 巴水

あけの月... 葛齋

登り... 武昌

あけ... 啓甫

雲... 花叔

雪 みるま

け... 春曉

あ... 重厚

あ... 左琴

雪のしほふふふふふふは竹の葉 蘭屋

人のほろほろほろほろほろほろほろ 希言

掃のほろほろほろほろほろほろほろ 南陽

ゆきのほろほろほろほろほろほろほろ 庭甫

うるほろほろほろほろほろほろほろ 梅間

さるほろほろほろほろほろほろほろ 春蟻

落葉 氷

雪のしほふふふふふふふふふふふふ 春蟻

雪 冬 籠

戸口にて落葉ふふふふふふふふふ 窓巴

ゆきのほろほろほろほろほろほろほろ 龜梁

小男麻乃ゆふふふふふふふふふふ 冥也

見るほろほろほろほろほろほろほろ 大蕪

山々の下をさくさくさくさくさくさく 万岱

志すれ戸口のほろほろほろほろほろ 長齊

雁乃啼ふふふふふふふふふふふふ 魯隱

つらふ津のあふはあつ次時啼
くちのうさふゆくれの松
玉禊土器乃火とまよあう
新又勢多戸へ幸徳若神
書うめと二の町はちたげれを
うさしすよほく寐こきあふ
も人こりやあわ乃南なる晨ゆ
けはれてちあふう治心の霧
六 明 阜 英 朗 青 圖

秋空お小籠乃るもあめは
くちく此身もけしあふ七十
ちまはたふ不新楼の美もいへ
破りあふあ四月表 雨
くちくや蛙のうくあもすり
色江小女のまのいふを
掃よとわいかくうる風をあ
たにうら乃系をかこ地まよ
六 明 阜 英 朗 青 圖

うら坂の社よりお妙子以
戸板海より舟着負来り
柳よりいよまたついでおはる候
硯の海のかろく折し意
本とて浪走るはしり河板菱
蜂よりいそぐ不破のゆふれ
竹杖乃よりしも七つよきぬ月
酒くさるあれ蛇磨奈李
青

水乃湧とる海もゆる浅井也
鳥羽の干瀉をきとる冥人
燕多し扇もつる日れうつり
かきよう急く系木よ花の咲
きさう起る多し此をかめはるわ
余り元ゆく彩霞樓上
朗

米旦

春らしし春ハわわりの奥山家

松年

冬花

御路のちゆ乃馬糞を挿ちきりて
まればあけとあけとの涙目を吐出す

門香の留す春見ゆるを春水

十州

元日の嬉し二日のおりーろー

丈左

梅柳 春水

酔亦免やうらうらとれ梅の花

計之

去のうらうらとれ梅の花

フセ 十邑

をいひ野よの咲うらうめの花

兆雲

梅堂月もろの向五尺けり也

岳路

春うらう梅の青うらわはさ

百池

おろろや柳よがれはさ

吐牛

早波

さすししはせよ出ふ水の水

青阿

花

うらみしやな遊学はな関もあし

桂五

雲のなねうらわし富う風

巢兆

雲や人のしよ世をふるくわる

雄淵

うらみしやな遊学はな関もあし

北鳳

雲乃瑞おんもさわねれうせ

五雄

うらみしやな遊学はな関もあし

琴波

遠州

げふ乃さえいとのかんていせぬ

柳莊

おと目も花れゆるわう一燈心

大魚

春の日はたつらふもまねのちうぶ

天老

おと目も花れゆるわう一燈心

吳来

兵庫

あをうけしりけしふ心あうね

物知

曙のまねとわとうりものもさう

虎杖

月を乃表はもりふしき風情か

騏六

ゆくはふをらんるや拜するや冬れさ

方朔

牛の角はよきぬもありんら
如毛

くまきておろふらん
想六

人軍をきつたの奥の奥にけい
玉江

清きのおいもはれのついで
丈雲

さうらの日暮るらん
猿左

一とあはれをとりたる様
卓龍

すめらうくもさうらもさうら
百席

うらなれおのまよめよ
徐英

花二日のらハれてうあふ
素郷

おはらわちるよまかハた
樽堂

さくら花咲くもさき
椿堂

春の かすこ

けるれおるくくの本は
蕉雨

まらぬのあもきん人の
双鳥

とくよああらお色の
か川女

ける乃ぬそくしらあふよ木花乃ふ

松本

真菘

維とと市森村のあきり不助

大魯

すこま一 停鳥

春の

とわしきしゆもま董子

下

一茶

秋くきれくはくもすれを

延之

雪と月心核めとこのまらるよ

布舟

くよい来すきのふを原のけく

桂裏

原くふ月よきくを公の朝寐小

蘭叟

春 月 暮 風

通あつぬおすくしよはる若月

上田

魚堂

ちる花衣のりふもせれ如るわ

雲帯

本よまよあひまのいふ可美の月

京

龍君

る紀くゆよも可美のりね小

可董

ける乃月後瀬の水よりり

川三

菜波

いづれをたづねておとらけふの月 スハ 若人

燈よりじくあまの影を春の月 点 蘆涯

ささきも木もゆめあつてける月 葛井

かめの決りよふる心ありまはれを 士峯

春風のちよらくとも山よわ 柳涯

散梅よ借まゝとらしむる乃の傍 卧央

雑子 暮春

雑子 暮春

けしきもくちなくまゝすゝ年 東水

雑子もくちなくまゝすゝ年 射道

その市のかりあつて雑子の意 マツ本 喚之

色もははるをくちなくまゝすゝ年 福島 春唄

大なるまゝのこゝの便り 代 吐文

おとらけのうけふもや 双南 双南

ゆくもふや 墨山 墨山

正月のなすしるめくる面敷う那 了國

俵ゆふま家鴨をもちし門の地 嵐外

をらくくハ依りまらばわける乃心 可考

ふとわぬる者ともるらん杉の足 泉阿

宿ともくは遠道又よしくまらるん 泉成

終り下りくく田圃えんしう寸まき種水 定雅

景北巻のいづかへとまよま巻の巻 素外

きいけはちめてしまよまのよける松 推巳

初る乳ふちとん松のける魚丸 一音

ちりふ白のけやまをよめてすまは 玉之

あつ後のいぢわんれいふてりるな 沙鷗

正月のちりハ人 白圀

まのそし一原まきくまにいすわ 西曉

あつ魚の動けいうて水のいろ 祖淳

神代よりかぶや麻のおとく角 芳中

枇杷のあまふあのかげ垣根木

イセ 鹿明

風下りさきしーりのあま

五明

寸多 卯花

毒のふりよまのよむとす

昆明

帝ぬまの堅固さうす

金鳳

ふいふき寸草の葉いづく

蘭二

さう月れさるるあてける

杜影

ほときすまけいさうさくあ

ヒラキ あく女

目枝よや川ふせらほと

白図

卯花よかすくまくちし

亞溪

けし 夕立 五月多

あまのや花を捨ふちるふし

長翠

さうやとあやめうくのさう

干當

さうのよまのめまのいさ

魚秋

あつけしのほいあなふれ乃月 大故 五寅

ゆきしらびきききて出る月夜小 素檠

閑呼鳥 鴨牛

ほろろ 故也

あまのしんきりもささゆすかんこ鳥 桐栖

家志のふきくまよしことと 六悟

人の来ぬらううたをき鴨牛 スハ 芸門

あさく月の二葉よのちるころあ 同 呂理

はく井つらら連なるがけ 思サキ 入素

あらしやがるあすうを念のこ スハ 自徳

あらしやがるあすうを念のこ ハ代 斗睡

経表 夏月

あつのおハ扇のよもなうけ 蛙 蛙聞

あしし、おや三月月とて唐の友 松本 仙市

了神開眼

あらしをまよふあさりのたねをのま

エト 無説

のち易ふあさりのたねをのま

宇六

あらしをまよふあさりのたねをのま

イセ 宗古

あらしをまよふあさりのたねをのま

スハ 千丈

あらしをまよふあさりのたねをのま

莫二

あらしをまよふあさりのたねをのま

あらしをまよふあさりのたねをのま
青川

雑

夏乃日をかたけゆくあしあはれ

野雀

竹の子よこれかたけゆくあしあはれ

マツ本 阿彦

しほ藤のお月をまわしふ家か

上穂 汝蘭

あらしをまよふあさりのたねをのま

あらしをまよふあさりのたねをのま

エト 文儿

あらしをまよふあさりのたねをのま

越中 吳山

はる波のや伊勢乃田植のゆふすこ

五周

みしうたやすしるる竹の月

武陵

みほゆやあまのまよひさうし

濱藻

ゆよおゆいなるもぬ

並けきと林の葉はらちひるき

みちる

竹酔日

ある人すむりおほふ屋和尚乃筆蹟をきし

くふくしあるるり庫小をり此人

一日予々子麻を訪ひ来まり予回うり白子筆

白隠の筆をきききききききききききき

如るの筆をうういままふやゆさうの徳を伝

おあふふふふふふふふふふふふふふふ

いおゆあつたはるお徳を伝くもあふ

まきけ筆乃おのものも竹の意のいやく

まきお秩持のいれこのをうふきうお

はようれぬめさうおのよわとさうはらひお

おしとおのりるるるるるるるるるるる

ころまいつゆをおこ乃まきとのみまきと

まおおうしとおのふとさうるるるるるる

意はくよとさうるるるるるるるるるる

そしきささやころおしとおのふとさう

あういぬ

竹植る

少汝

はやくよかふむをたのむ

この日とついで来る人への興

うゑゝのく舟よこちりく古葉に

白園

ちやうくと紫のる竹を植よわ

魚堂

こゝ修し植るう竹ハおしるよ

布泉

うゑ直す舟の根をけく鴨牛

大阜

竹うゑるゆふふきうをほむ

天光

ゆゑ植ふ竹ありうれしくゆり

卧央

竹うゑくやと植よからきめを

士朗

まげうゑるはやりのあるが

羅城

舟植く道ふゆりかきけ舟

徐英

月うゑよさうりして竹を植よら

松兄

まげうゑくまはあつて成まけり

方明

たよいら竹よ尾をふかひぬま

岳輅

舟うゑくあるはくちの罾ふ

行脚 玉屑

山傍幽翠

すてゝる花散るや杉風桐火桶

桂五

去のすむむ花の中乃乃花家う那

騏六

夏月清蔭

養うふ世乃人をえりる乳

干當

いとわのまこいりりあつりらるるの月

椿堂

清節凌秋

芝舞のいよををむる雀ふ如

青川

はくもゆきく結うさひう舞まら

瑞馬

幽叢翹烟

ハ日月をふとくあつれ氣ま

成美

ゆふらやけやあつりる心

芦丸

故あう火や竹四ふう信あし

自樂

虚心友石

石落の系よゆけうるむらわ

南陽

何あうましとれある秋の居所

猿左

湘中清心

あまきるる心もいけりともなはれ 斗入

すじよきとくくうくすまらふ 升六

清晨帶露

あつらは子統子の屋をひくたけ 蕉雨

いものきふ盤くらふちるいさふ 一草

清風高節

月くまよとくけいけのあらし 煮礫

あまの葉をちりりと呼ぶらるる 了園

露凝寒葉

あつらやねをきき冬の可をたけ 駸道

いねあまのいせいき月あつら 可都里

あつら寸袖色の森とけらるる 双南

朝雲密翠

まのあめ扇あつら色海とます 其成

あつらあつらあつらあつらあつら 魯隱

徐蔭連詩

柳莊

標堂

移竹半浦

卓史

國瑞

字洋

鳳枝吟月

白居

州菴

前面寒光

友國

長齋

景山

享和元秋七月廿五日興行

あさ白をとり初りけふるふ小庭外

桂五

まの、増ふあをしくむ秋乃日

少汝

月や面あめやしき音かゝるむ

羅城

葉もあををはきまぬ、志は砂

魚堂

まよすきく又も推するらん世貞

松兄

をわく連のかりか葉風

大阜

雪乃わうとたぐくにしるるこころ

天老

くしる面をはくふ初歩若心月

玉江

吸まのふはるこのころか唐うし

五雄

あまやあむむ秋のしし野を

葛井

法もそく網のしゆく鴨の志

橘良

多の洞田ハ藪の在所よりはわ

嵐堂

藤心より卒於漢の文章をい包む

岳輅

あり秋も居るらんす父母

蘭厓

むもはやまのまの乃又日ひあす

方明

言けりくたぬ月かゝありぬ

霜居

緋子の尾は赤の裾をうち返す

東水

中へあるへや世世の手ゆきぬ

梅間

僧侶の丈口きくふりあ破り

士朗

傘さしうきあるぬのとり火

五

猿巻り何とぞいひぬ松穀垣

汝

月あふく夜はかき著け葉

元

白き袋のうきうきとゆふ露

堂

赤き巻をうきふとく松はねらふ

光

松風の一方田はうきとく

江

すくすくはるはあえふ子位時

雄

うきかあふ夕飯と紅をまらふ

井

ふとすくはるはと居をうき月

良

おとあふはるは乃芒の尾をうて

堂

芙蓉のまを紙うき守御車

輅

夜眉の白よも折よふしをまき
膝よまきしうあそふ子供等
ちやむらハ新無事の鐘は動きあ
壁の金くまきしんはゆるるは
書物のまき中よわをまき
まよくまきまきまき

屋 明 居 水 同 城

初穂 星夕

盆

多の如啼一ねらうのふ、秋をぬ
まう屋もを桐の木持多様を
石もくやまきえく又んるこ何
ゆふくしやまきまきあふの川
お不流のはつよ者うふ星む之
秋もまきしのちうま入はうま

越巢 滄波 可都里 壺伯 白岡 紀鳳

世やうりぬくもやむめるまの月
以南
うらまやいしう門中の夕ありし
秋國

新句 きぬ

つく箱の世を舞の木の枝
士朗

笑うるもしくぬくのあし
自樂

あは魚のいづくはあふぬ
尺大坂艾

舞や飯のほめたる麻心
玉湖

花うつ敷のうらも月夜う那
蛙村

たつせのきうなりけり
ゆと女

蘭 菊 萩

多きうらもくきよき
月居

うられ萩もある箱の菊はさし
祇徳

萩の萩さしと月ようこきけり
琴州

又く居れば満うらぬ萩のを
嵐堂

志しきく乃川後より一萩すき 李園

札は家々く一屋ふきく乃海より 高砂文

この家々云々の形より萩のはれ 卓池

仲風う神ぬまきりわ三様のとも水 帯楳

小島より山中をとりたりる乃
是のふくまておくこさしを
お増しつさす急るるけい由す男
肩よりるる形と証ちるる萩と云

萩のこし日乾くぬ麻のさきく 羅城

秋風

版書 世

新のやまより飛くも秋乃うせ 升六

人のおのひ人ハ志すはく好の風 喜年

あまう海のあまのハさく一草のこ 上穂山阜

秋う勢あふまきりく音れ遠く申 左雀

あし一軒を又あきあは秋の風 嵐素

庭をけハ掃りて秋乃書 蒼虬

ゆふの夜明けきゆわぬはきり

瑞馬

風乃尾をさう袖をふく吹すらぬ

子東

病ありけきさけつらさけぬはぬ

少汝

きつしくむ

秋蝶

霧

産うし

暮る秋

花乃ゆきを望つてうらみきりす

如東

朝きわよ又んえんかすするさあきり

さき女

と井るのよよはらるるや秋を蝶

祐昌

色似竹のきりて秋やきしけん

橋良

おもろくや秋よとある秋を蝶

白居

ふついのきりて秋を蝶

橋うくと保る

たちあぬともあはれりらるる

全

新

あきつるきりて秋を蝶

乙二

あきつるきりて秋を蝶

一州

ハ菊の梅さうくおよごりまことし
文地

人をえんく啼くわ秋のらうらす
瓜坊

猪妻や故よらうらもいふか
葛三

雪よのち葉もいそく輝のくれ
圃曉

ふらふらのまじりふらふ
公

ふらふらふ木撞垣根やうらうら
梅固

家うけを抱くをくや秋の蝉
一炊庵

海草ゆやほゆのうけ新波
冥々

かくそくろうろうをうせあき乃心
硯静

月

名月やはぬののそく川むし
都貞

あよじく葉の初さよ秋の月
魚村

あよほほはく序うる月のゆき
寿松

りすむや魂舞のらうらを描い
周瑞

のらうらほほはく月の都
魯堂

